

## 執筆者二〇一八年度業績欄

### (掲載順、三点以内)

- ・【口頭発表】“The Politics of What to Read: Cultural Conflict in the Reform Era of China” 京都大学大学院教育学研究科北京師範大学教育学部学術交流活動(二〇一八年一月、京都大学)
- 木下浩一(京都大学大学院教育学研究科博士課程)
  - ・「民放ネットワークを通じた放送規制の間接的影響—クイズ番組による関西からの情報発信」『社会情報学』第七巻第一号(二〇一八年)
  - ・【口頭発表】「番組種別の規制と種別の越境—商業教育専門局・日本教育テレビを事例に」日本マス・コミュニケーション学会春季研究発表会(二〇一八年六月、学習院大学)
  - ・【口頭発表】「民放ネットワークを通じた放送規制の間接的影響—クイズ番組による関西からの情報発信」社会情報学会大会(二〇一八年九月、島根大学)
- 松尾理也(京都大学大学院教育学研究科博士課程、大阪芸術大学短期大学部教授)
- 佐藤卓己(京都大学大学院教育学研究科教授)
  - 『ファシストの公共性—総力戦体制のメディア学』(岩波書店、二〇一八年) Ⅱ第七二回毎日出版文化賞受賞
  - 『現代メディア史新版』(岩波書店、二〇一八年)
  - ・共編著『近代日本のメディア議員—「政治のメディア化」の歴史社会学』(創元社、二〇一八年)
- 比護遙(京都大学大学院教育学研究科修士課程)
  - ・「聯結民衆与知識分子的橋梁—日本学生看《読書》雑誌 知識分子的過去与未来」『読書』電子版(二〇一八年)
- ・『読書』のメディア史—文化大革命から天安門事件への読書人的公共性(二〇一七年度東京大学教養学部卒業論文)

・【口頭発表】「昭和戦前期における『二流紙』の日本主義化プロセス―『大阪時事新報』を例に」日本マス・コミュニケーション学会春季研究発表会（二〇一八年六月、学習院大学）

・「昭和戦前期『二流紙』の日本主義化プロセス―『大阪時事新報』を例に」『マス・コミュニケーション研究』第九四号（二〇一九年）

・「ポスト政論新聞・大阪系全国紙の迂回路―特ダネ主義と政治部記者」佐藤卓己・河崎吉紀編『近代日本のメディア議員―「政治のメディア化」の歴史社会学』（創元社、二〇一八年）

○趙相宇（京都大学大学院教育学研究科博士課程、日本学術振興会特別研究員）

・【口頭発表】「過去」と「未来」の交錯過程における対日情緒の「現在」形成―大韓民国における三・一節と八・一五光復節のイベント分析から」日本マス・コミュニケーション学会春季研究発表会（二〇一八年六月、学習院大学）

・【翻訳】李準雄「インターネット対話における市民性活性化の効果」第二四回日韓国際シンポジウム（二〇一八年八月、京都大学）

・「三・一節の周年報道における対日感情の検討―一九七〇年代の韓国社会を中心に」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第六五号（二〇一九年）

○王令薇（京都大学大学院教育学研究科修士課程）

・「リスク意識の教育装置―「中学生日記」の分析から」（二〇一八年度京都大学教育学研究科外国人入試提出論文）

・【口頭発表】“Creating a School on Television: A Study of NHK *Chugakusei Nikki*”, The 11th Next-Generation Global Workshop, Kyoto University, November 2018.

○赤上裕幸（防衛大学校公共政策学科准教授）

・『もしもあの時』の社会学―歴史にifがあったなら』（筑摩選書、二〇一八年）

・「メディア議員の翼賛・迎合・抵抗―翼賛選挙と公職

追放」佐藤卓己・河崎吉紀編『近代日本のメディア議員―「政治のメディア化」の歴史社会学』（創元社、二〇一八年）

・「視聴覚教育の展開―未来史からの視点」稲垣恭子・岩井八郎・佐藤卓己編『教職教養講座第一二巻 社会と教育』（共同出版、二〇一八年）

○福永健一（関西大学大学院社会学研究科博士課程）

・「ベル・システムにおけるマイクロフォンとラウドスピーカーの研究開発（一八七六一一九三二）」『人間科学―関西大学大学院社会学研究科』第八八号（二〇一八年）

・【口頭発表】「声のメディアの時代―一九二〇―三〇年代の米国における声の営みのメディア史」第三九回大阪メディア文化史研究会（二〇一八年一月、同志社大学）

・【口頭発表】「書評『ラジオが夢見た市民社会―アメリカン・デモクラシーの栄光と挫折』国際日本文化研究センター「音と聴覚の文化史」二〇一八年度第二回

共同研究会（二〇一八年九月、国際日本文化研究センター）

○水出幸輝（関西大学ほか非常勤講師）

・「地震後派」知識人の震災論』『マス・コミュニケーション研究』第九三号（二〇一八年）

・「警告する新潟地震―オリンピックを介した二つの「破壊」」石坂友司・松林秀樹編『一九六四年東京オリンピックは何を生んだのか』（青弓社、二〇一八年）

・「防災の日」のメディア史―日本社会における災害認識の変遷（二〇一八年度関西大学大学院社会学研究科博士論文）

○花田史彦（同志社大学非常勤講師、京都大学大学院教育学研究科博士課程）

・「平等」の夢と陥穽―中島岳志『下中彌三郎―アジア主義から世界連邦運動へ』（平凡社）を読む』『京都メディア史研究年報』第四号（二〇一八年）

・【口頭発表】「戦後日本における「独学」の思想―映

画評論家・佐藤忠男の教育論」日本社会教育学会第六  
五回研究大会（二〇一八年一〇月、名桜大学）

・【口頭発表】「戦後思想としての大衆文化論―鶴見俊  
輔と佐藤忠男」日本思想史学会二〇一八年度大会（二  
〇一八年一〇月、神戸大学）

○彭永成（京都大学大学院教育学研究科博士課程）

・「結婚情報誌研究の射程」『京都メディア史研究年報』  
第四号（二〇一八年）

・「ブライダル情報誌『ゼクシイ』に見る 結婚イメー  
ジの個人化」(二〇一八年度京都大学大学院教育学研究  
科修士論文)

○杜亦舟（株式会社ジエイ・キャスト）

・「インターネットのローカリゼーション化と日本の  
ネット公共圏」『京都メディア史研究年報』第四号（二  
〇一八年）

・「浮上する「ネット論壇」の比較メディア論」（二〇  
一八年度京都大学大学院教育学研究科修士論文）